

平成 30 年度第 1 回志布志市まちづくり委員会 会議録

日時：平成 30 年 12 月 21 日（金） 午前 10 時

進行 中尾係長 開会のあいさつ

【市長挨拶】 下平市長あいさつ

【委員紹介】 中尾係長から紹介（委員 19 名出席）

【協議】 議事進行：井上会長

○庁舎移転の基本方針説明：樺山企画政策課長

- ・市長退席
- ・報道関係者退席

○質疑応答

Q 1：管理部門の移転となれば、このような会議も志布志支所で開催ということになるであろうが、駐車場の確保はどのような計画か。また、改修に伴う費用の把握や検討委員会で駐車場の配置や利用計画について協議した内容も教えてほしい。

A 1：庁舎移転の中で駐車場問題は大きな課題。台数等の調査を行っている。一般来庁者用の駐車場は有明本庁舎が 78 台、志布志支所は 73 台とその他各課に公用車及び職員駐車場があるが、その整備が必要。職員は文化会館の駐車場を利用し、保健所の駐車場一部を公用車駐車場として借用できないか相談中である。また周辺の民間駐車場についても調査を開始している。会議等も多いが、なるべく一般の大きな会議は文化会館の会議室を利用するようにし、移転当初は、駐車場への誘導員の配置も考えている。今後、来庁者の利便性を考慮しながら整備を行う必要がある。移転費用については、間仕切りや執務室の改修、配線や空調関係など、個別に調査しているところであるが、予算額の提示は次回の会議で概算額でも示せるよう努力したい。

Q 2：民間の駐車場を利用するとのことだが、東南海地震による津波が来た場合、どのあたりまで浸水するのか把握して整備するのか。市が指定した駐車場での被害については市に補償を求めてくると思われるが、そこまで検討しているか。

A 2：大事な提言をしていただいた。安全対策については十分考慮して検討している。これから、そういった視点ももって協議してまいりたい。

Q 3：都城志布志道路、東九州自動車道が近い将来完成し、他の官公庁や企業との調整も出てくるので、志布志支所への本庁舎移転は十分理解はしている。有明庁舎は比較的新しくて、大きな建物であるので活用を考えてもらいたい。例えば、医師会立病院の移転、あるいは、比較的大きな病院等の誘致、あるいは特別養護老人ホーム等の福祉関係の施設の移転など、そういったことも含めて考えてもらいたい。

Q 3：志布志支所への本庁舎移転は永年の課題だった。志布志市と名乗る以上、志布志市の持つイメージは港町という固定的なものがある。また、新行政組織図を見たとき、市民目線で考えると、港湾商工課は別として、市長・副市長・総務課といった管理部門よりは、市民の利用が多い市民税務課、福祉・保健課が大事ではないか。高齢者のことを考えても、運転免許の返納や

交通網の観点からも市民の受付がある部門が大事ではないか。転入転出が最も多いのが志布志町である。県外などから来る人にとって、志布志町に本庁があるのとないのでは違うのではないか。

A 3：貴重なご意見をいただいたので、これからの協議の参考にさせていただきたい。有明庁舎の活用については、窓口等の検討も現在行っている。ご存知のとおり、福祉課と保健課のスペースが狭い状態で、市民にも迷惑をかけている。相談の窓口もプライバシーが守れない、相談内容が外に聞こえるのではないかという状況である。我々としては、保健、福祉課といった窓口のサービス体制をまずは充実させていきたい。窓口の取り扱い件数が多いのは志布志支所であるが、当面は、窓口部門の課長は有明庁舎に置いて、今の体制をしっかりと維持しながら進めていきたい。

総務・財務・企画は市の重要な部分の協議をする部門であり、市長と協議をする場としてご理解をいただきたい。市長が言われる市民目線の立場で窓口サービスの充実を図っていきたい。

Q 4：以前、志布志支所で市民が課税に関する問い合わせに来られていた際に、支所では分らず、詳しく説明するので本庁まで来るようにということがあった。本庁と支所でこういう差があるのは市民サービスとしていかがなものかと思う。

A 4：台帳や資料などが本庁にある関係でそのような対応になったのかもしれないが、制度的なものが支所では分らないということがないようにしないといけない。ご意見をいただいたので、各課と協議していく。

Q 5：志布志支所が本庁になった時の移転しない部門の窓口の職員数はどうなるのか。

A 5：まだ概算ではあるが、有明の総務・企画等の職員が 70 名程度志布志に、志布志の地域振興課の職員が 10 名程度有明に移動する。その他、嘱託職員等も移動する。その点でも駐車場の確保が必要になってくる。

Q 6：これまで有明に本庁、志布志支所に教育委員会、松山支所には農業委員会が置かれて総合支所方式であった。志布志支所に管理部門が移れば、職員の移動に伴い駐車場が必要になるが、教育委員会を有明庁舎に移せば、学校関係者などの出入りの対応や会議室も有明地区公民館で対応できる。一番ネックである駐車場問題に関してもその点において検討はなかったのか。また、今後の高速道路網の整備等を考慮して、建設課についても志布志支所への移転の検討はなかったのか。

A 6：5月の検討委員会設置から、これまで週に2、3回のペースで協議を行い、教育委員会とも協議を重ねてきた。有明庁舎への教育委員会の移転についても時間をかけて協議してきたが、教育・学校関係については、指導体制も志布志が中心になっていることや近々国体も開催されることなど、様々な検討を重ねて最終的に現在の結論に落ち着いた。また高速道路網や港湾関係など市街地の活性化のためには建設部門の移転も重要であるが、まずは管理部門の移転による本庁舎の位置を志布志支所に移転することから進めていく。建設部門については、志布志支所の産業建設課と連携しながら、次の段階ということで考えている。

Q 7：市民サービスとか暮らしやすいということを目指していくのであれば、市民サービスに重点を置いた機能を本庁に集約して、市民サービスへの直接的な関わりが少ない教育委員会につい

では、必ずしも本庁に置かなくても良いのでは。志布志港が志布志町にあるのに、港湾商工課や水産関係の担当課が志布志支所になくて、なぜ教育委員会が志布志支所にあるのか疑問を感じていた。今回が良いチャンスであるので、大きく踏み込んだ体制づくりを望む。

A 7：先ほども申し上げたとおり、教育委員会とも協議を重ねてきたところであるが、そのほかにも生涯学習における文化施設や体育施設との連携など、管理の面からも志布志の方が適しているとの結論に至った。本日の意見を踏まえて今後、協議していきたい。また志布志港を中心としたまちづくりについても、港湾商工課の移転により、早めに対応できるよう組織改革とあわせて取組んでいく。

Q 8：市民の利便性を考えると志布志支所に本庁機能を移すことは賛成。教育委員会を有明庁舎にという意見があったが、教育こそが一番大事であり、教科書に向かってする勉強だけが教育ではない。日本が平和であるのも教育のおかげ。生活やお金も大事だが、喜びや楽しみ、生きがい的大事。志布志市は生涯学習日本一のまちを目指している。教育委員会には、教育課と生涯学習課があり、一生懸命市民のためにやってもらっている。文化会館も志布志町にあり、生涯学習センターも文化会館にできた。教育委員会は志布志町にあってほしい。

Q 9：本庁舎移転の財源として合併特例債を活用するということが、今回の移転に関して、億単位の費用がかかると思われる。財源確保は大丈夫か。

A 9：有利な起債を使って、なるべく一般財源の持出しが少なくなるような形で対応していきたいと考えている。

Q 10：新行政組織図を見ると、会計課は管理部門ではないのかと素朴に疑問に思う。また、有明支所に9つの課が残れば、統括する人が必要ではないか。

A 10：会計課についても検討を重ねたが、収納の関係で現状のままが良いとの判断がなされた。また、有明支所には、支所長兼地域振興課長が配置される。

Q 11：決裁文書等も支所長が、各課のものを決裁するのか。

A 11：支所では、支所長で課長の出張、年休等の決裁をしている。現在でも、課長の年休や一定金額までの決裁を支所長が行っている。

Q 12：志布志支所は耐用年数があと20年くらいあるとのことだが、松山、有明庁舎の耐用年数はあとどれくらいか。

A 12：有明庁舎は志布志支所より2年遅れて完成している。松山支所はあと15年であると記憶しているが、協議の中でも松山支所の改修の件は議論にあがっている。当然、公共施設の維持、長寿命化ということもあるので、そのような観点で財務課とあらためて協議をしていくこととしている。

Q 13：松山の場合は、支所の横に老人福祉センターがあるが、その耐用年数も近づいているのではと思う。本庁についても20年後、30年後に新庁舎建設の検討もあるが、その前に検討をしなければならぬ建物も出てくるのではと思う。また、全国で起きている様々な災害に対しては、市役所の事務的な機能と合わせて避難所としての機能も備えておく必要がある。検討していただきたい。